

SIGN Water

杉原淳博士(工学)開発の活性水

どのような水なのか? サイン水 ~ Spin Information Gauge Network

通常水は分子の集団(クラスターと言われている)で存在すると考えられていますが、杉原淳(スナオ)博士は、この水は分子がバラバラになった状態で存在していると考えています。

上記を証明する方法は、H-NMR(水素核磁気共鳴)で分析する以外にはないと言われています。杉原博士は、この分析で活性水(SIGN Water)が明らかに通常の水とは異なり、細かい水であることを証明しています。顧問である三木敬三郎理学博士に確認したところ、H-NMRが唯一の証明方法であり、それ以外には証明は出来ないということです。また、H-NMRの分析結果については、物理学者は反論しないということです。

活性化水(SIGN Water)のエネルギーによる細胞活性化

この活性化水を飲むと → 血流量が 10 %～・血流速度 3.0 %～ それぞれアップします。

※心拍数は変化しません。

- ・血中酸素量の増大
- ・心臓筋肉の伸縮活発
- ・血液粘度の減少

細かい水は各細胞へ入りやすく、文字通り、“みずみずしい肌”になります。それだけではなく、栄養等の運ばれ方も変わります。当然血液中の酸素も増えます。



証明

血流スコープ

過去にドップラー方式で測定しデータを取っています。

血流モニターという、外部から指の毛細血管を見ることが出来る顕微鏡を導入しました。動きがなかった毛細血管が、この水を100cc程飲んで、10分後に再度血管を観察すると、脈動が大きくなり、また血流が速くなる状態が見られるようになります。数多くの人が試しましたが、ほとんどの人がその効果を自分の目で確認し驚いています。また、再現性もあり一つの証明といえるのではないでしょうか。

この結果、～この水を飲み続けることにより、血管に由来する様々な病の予防につながる～と考えられます。

さらに…期待できる利用方法～抗菌効果～

- ・水自体が抗菌力を持つので、常温で長期保存ができる。
- ・花瓶などに用いれば、花は長持ちする。(実験済み・再現性あり)
- ・食材をこの水で洗ってから保存すれば長期保存が期待できる。

防腐・酸化防止…病気は身体の酸化状態

活性水は還元水であり、防腐、防さび、防酸化(“還元”)作用に関わります。